

令和5年度(2023年度)陸奥湾マダラ稚魚分布調査結果について

2023年5月15日~17日、6月5日~7日の2回、それぞれ陸奥湾の8調査点で試験船青鵬丸(65トン)のオッタートロール海底曳によるマダラ稚魚の分布調査を行いましたので、結果をお知らせします。

マダラ稚魚の採捕尾数は、5月が7,842尾、6月が2,059尾と、5月に多く採捕されました。

図1に5月の地点別の分布密度を示しました。最も高かった地点はSt.7で249尾/1,000m<sup>2</sup>でした。この他、2021年及び2022年に続いて全調査地点で分布が確認されました。また、地点別標準体長別の採捕尾数を表1に示しました。標準体長のピークはSt.8の40mmが最大でした。

図2に分布密度の平均値と最高値の経年変化を示しました。2023年5月の平均分布密度及び分布密度の最高値は7年間で4番目に高い値となっており、近年の中では中間的な豊度であった可能性があります。

2022年漁期(4月~翌年3月)の陸奥湾(竜飛~奥戸)のマダラ漁獲量は、1981年漁期以降で最多となる2,407トンでした。2016年漁期以降、1,000トンを超える漁獲が継続していますが、その間、稚魚豊度は大きく変動しています。

来年以降も調査を継続し、稚魚密度と資源量との関係を明らかにし、漁況予測出来るよう取り組んでいきます。

(資源管理部 松谷紀明)

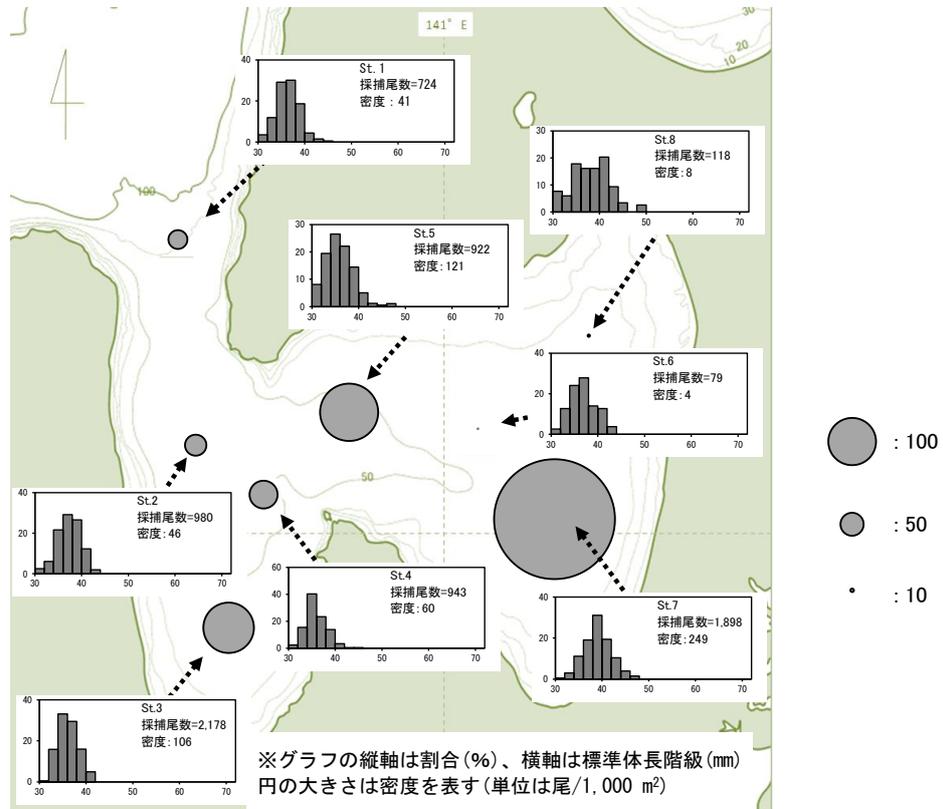


図1 陸奥湾マダラ稚魚分布密度と標準体長組成結果(2023年5月)

(試験船青鵬丸によるオッタートロール)

表1 地点別標準体長別採捕尾数(マダラ)

モード:

単位: 尾

標準体長 (mm)	St. 1 N=724	St. 2 N=980	St. 3 N=2, 178	St. 4 N=943	St. 5 N=922	St. 6 N=79	St. 7 N=1, 898	St. 8 N=118
20 ≦ - < 22								
22 ≦ - < 24								
24 ≦ - < 26								
26 ≦ - < 28								
28 ≦ - < 30	3	1			13	2		1
30 ≦ - < 32	25	24	11	23	75	2	9	9
32 ≦ - < 34	86	59	346	146	179	10	56	7
34 ≦ - < 36	211	211	723	381	245	19	211	21
36 ≦ - < 38	218	285	643	221	204	22	363	19
38 ≦ - < 40	135	260	349	131	133	11	589	19
40 ≦ - < 42	31	120	108	32	46	10	368	24
42 ≦ - < 44	10	19		5	11	3	198	11
44 ≦ - < 46	3			5	4		75	4
46 ≦ - < 48					10		28	
48 ≦ - < 50								3
50 ≦ - < 52								
52 ≦ - < 54								
54 ≦ - < 56								
56 ≦ - < 58								
58 ≦ - < 60								
60 ≦ - < 62								
62 ≦ - < 64								
64 ≦ - < 66								
66 ≦ - < 68								
68 ≦ - < 70								
70 ≦ - < 72								
72 ≦ - < 74								
74 ≦ - < 76								
計	724	980	2, 178	943	922	79	1, 898	118

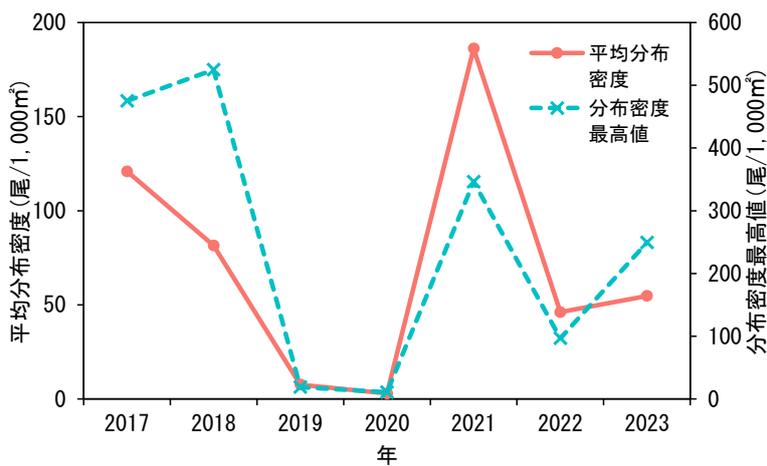


図2 5月の陸奥湾マダラ稚魚分布密度の経年変化(2017年-2023年)